

2 時限目 一番大切なのは？

どんなマーケットでも買う人がいて売る人がいて始めて値段が決まります。この原則は売り買いの場所が取引所取引である証券市場であれ相対市場である為替市場であれ変わることはありません。

自分が今後対象となる価格が下がると思うから売る、逆に上がると思うから買うこの行動パターンは大原則となります。この原則に逆らって売買を繰り返す人はまず存在しないでしょう。

しかしただ投資家本人が「考えている」「予想している」だけなのも事実です。ここには何ら確実なものも存在しないのです。

たとえばこんな例があります。

ある日、オーストラリアの重要指標である雇用統計が発表となりました。結果は事前予想を下回るプラス2万人との発表でした。失業率も前月4.8%から悪化を示す4.9%でした。事前予想とは市場を分析するアナリストなどが直近の状況等を考慮に入れて指標の発表前に提示する数字です。この時の事前予想では雇用者数変化プラス3.5万人、失業率4.9%であったのです。

しかし実際のマーケットの反応は指標発表前の85.50円に対して発表直後はさすがに売られて85.30円となりましたが、5分もたたぬうちに上昇に転じ1時間後には86.00円で推移しています。経済指標がオーストラリア経済の悪化を示しているのにその国の通貨が買われるなんて、そんなバカなことが・・・と考える人もいるでしょうが、実際におこりうるケースです。

このケースでは、マーケットのコメントは事前に織り込み済みでそれまで売り込まれていた分、下値が堅く反発に転じたとのことでした。しかしこれもおかしな話です。事前予想がプラス3.5万人と出ているわけですから・・・本来であればその数字に対して発表が2.0万人ですからマーケットはアナリストの発表数字を無視して事前に売り込んでいたこととなります。事前に売り込まれていた根拠がわかりません。

マーケットにはこういったことはよくあることです。

この例でほかの出てくるコメントとしては、85.30円レベルで買いが集まっていて底堅さを示し下げ渋ったため、いわゆる下値の堅さが確認されたとか、ファンド筋に買いが入ったなど様々な理由付けがされます。

しかし基本的にどれも一般の投資家が察知できないことばかりです。

投資家が様々なことを予想して売買を行ったとしても予想しきれないケースは数多くあります。このようにマーケットには何一つ確実なものは存在しないのです。

この原則に沿って考えれば、マーケットで決められた価格は絶対的な事実で、その価格の決定要因は前述したように何一つ確実なものを持たない投資家（プロアマを含めて）たちの売り買いのバランスが崩れることによってその事実が作られていくのです。

価格が決まる、変動するという仕組みは、いまさらながらというお話ですが、非常に大切なお話なので心に刻んでおいてください。

そうすると様々な場面で役立ちます。

前述の例でマーケットのコメントが「事前に織り込み済み」ということでしたが、「価格が売り買いのバランスが崩れることによって決定される。」という仕組みを考えると、このコメントには疑問が残りますね。発表の数字が売りを示しているのに、「売る人（量）」より「買う人（量）」のほうが多いわけがありませんから、きっとほかの要因があったと容易に想像することができます。

でもこのようなことが容易に想像することができて、本来の目的に「直接的」には何のメリットをもたらしません。だって、売買をするすべての人は利益獲得が「本来の目的」なのですから……

しかしながら直截的」ではなく「間接的」にみると、

「事前に織り込み済み」→「そんなわけわけわかない」→「でも価格は上昇」→「ほかに何か別の力が働いている」だから……そのあとは意見の分かれるところです。

その力を信じて「買いを入れよう」という人もいますし「ポジションを落とそう」、「その理由がわかるまで手控えよう」、「一次的なものと判断して売りを入れよう」などです。

少し横道にそれましたが、ここで一番お伝えしたいことは、何ら確実なものを持たないマーケット参加者の「売り」、「買い」で、決定されているものであるということです。

だからこそランダムウォークを続け、そこに乗せて売買を繰り返すのが投資家の姿なのです。

投資家にとって大切な資産を不確実なものに投資をするには、単に「上がりそうだ」「下がりそうだ」の予想だけでは、あまりにも稚拙な行動といわざるを得ません。

そこで必要不可欠となってくるのが「リスクマネジメント」という概念です。

詳細については、本校の「大学」にて触れていますが、「資金管理」、「運用管理」、「運用方針の立案」といったようなこととなります。

マーケットの分析やテクニカル分析も確かに重要な項目ですが、実はこのリスクマネジメントが、リスクを取って売買を繰り返す運用において一番重要なことなのです。